

# 平成26年度「逗子市学習状況調査」の分析結果（中学校）

## 〇はじめに

平成26年4月22日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童・生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童・生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内中学校2年生を対象とし、国語、社会、数学、理科、英語の5教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。

この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

## 1 実施状況

- 調査実施日 平成26年4月22日
- 実施教科 教科に関する調査（国語、社会、数学、理科、英語）
- 実施学校・学年・調査数 逗子市立中学校2年生 365名

## 2 逗子市の調査結果の概要（中学校2年生）

国語	<p>国語は、「書く能力」（1設問）の平均正答率が50.6%、「読む能力」（10設問）が59.9%、「言語についての知識・理解・技能」（10設問）が66.4%とやや課題の残る結果となりました。</p> <p>「書く能力」については、自分なりに考えた理由は書けているけれども形式的な条件を1つ満たしていない生徒が約10%いることがわかりました。「読む能力」については、論理展開をとらえる設問において、昨年は正答率40%を下回りましたが、今年は正答率58.0%と改善が見られました。しかし、指示代名詞の把握という基本的な読解に関しては、正答率が26.2%で課題を残しました。「言語についての知識・理解・技能」では、漢字の読みについては平均正答率が約80%で良好でしたが、書き取りについては、平均正答率が60%を下回り課題が残る結果となりました。特に「預ける」という漢字の書き取りについて、正答率が50%を下回り課題が残りました。</p>
----	--

<p>社会</p>	<p>社会は、「社会的な思考・判断・表現」（7設問）の平均正答率が62.2%、「資料活用の技能」（3設問）が45.5%、「社会的事象についての知識・理解」（31設問）が65.0%とやや課題が残る結果となりました。</p> <p>「社会的な思考・判断・表現」では、地理分野（4設問）については、平均正答率が約75%とおおむね良好な結果でしたが、提示された資料をよく読まずに回答している生徒が10.2%みられました。また、気候に関して判断するために必要な知識を十分に持っていない生徒が13%以上いることがわかりました。「資料活用の技能」については、正距方位図法上で三大洋の名称と位置が写像できなかつた生徒が約30%いることがわかりました。太平洋として扱っている生徒が20%を超えていました。「社会的事象についての知識・理解」については、東京の緯度・経度について問う設問で、正答率がそれぞれ50.8%、43.6%と課題が残りました。また、飛鳥・奈良・平安時代におけるできごとにおいて、大宝律令についての正答率は課題が残ったものの、他の3つのできごとの平均正答率は80%を上回り、良好な結果となりました。教科書の表現を変えている設問では、38.4%と課題が残る結果で、他の誤答へも均等に分散している状況でした。文化面に関してはほぼ50%と課題が残る結果でした。</p>
<p>数学</p>	<p>数学は、「数学的な見方や考え方」（4設問）の平均正答率が43.6%、「数学的な技能」（17設問）が64.2%、「数量、図形などについての知識・理解」（7設問）が56.0%とやや課題の残る結果となりました。</p> <p>「数学的な見方や考え方」については、ヒストグラムにおいて、表の違いについて読み取り、比較説明する設問では、正答率が13.2%と課題が残る結果となりました。根拠を資料から構成する力に問題が残りました。「数学的な技能」では、正の数と負の数の四則計算については平均正答率が74.3%とおおむね良好でしたが、数量の関係等について、文字を用いた式で表すことができるか問う設問においては、正答率が半分から1/3という課題の残る結果となりました。円柱に関しては、体積を求めることはできていながらも、表面積を求めることができなかつた生徒が15%以上いました。「数量、図形などについての知識・理解」では、<math>y</math>が<math>x</math>に比例するものを選択する設問において、正答率22.6%と課題が残る結果となりました。2つ選ぶべきところ1つしか選ばなかつた生徒は35.6%おり、またほかのものも選んだ生徒は33.1%いました。円柱と円錐の体積比に関しては、具体的な数値で比較できるにもかかわらず正答率37.7%と課題の残る結果でした。</p>

理科	<p>理科は、「科学的な思考・表現」(13 設問)の平均正答率が 53.8%、「観察・実験の技能」(5 設問)が 42.8%、「自然事象についての知識・理解」(16 設問)が 48.7%と課題の残る結果となりました。</p> <p>「科学的な思考・表現」については、物質の融点と沸点の違いから物質の状態を判断する設問において、2 つとも正しく答えられている生徒が 24.0%、片方だけ答えられた生徒が 11.6%、正答以外に他の物質も入れてしまった生徒が 44.8%と、課題が残る結果となりました。「観察・実験の技能」については、顕微鏡の操作の手順を正しい順に並びかえる設問において正答率 32.9%と昨年比べて約 10%の改善は見られましたが、引き続き課題が残りました。ガスバーナーの操作に関しては正答率が 24.0%と、なぜそのような操作をするのか理解が十分でなく、課題の残る結果となりました。「自然現象についての知識・理解」ではスポンジを押す力について問う設問においては、正答率 50%を超えましたが、単位を N から Pa に変換する設問は正答率 15.7%と、単位換算について課題が残る結果となりました。</p>
外国語 (英語)	<p>外国語(英語)は、「外国語表現の能力」(14 設問)の平均正答率が 54.7%、「外国語理解の能力」(16 設問)が 57.9%、「言語や文化についての知識・理解」(18 設問)が 80.0%と評価の観点によって正答率に差が出た結果となりましたが、全観点ともに昨年度と比べ改善が見られました。</p> <p>「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」について、会話文中の空欄に入る同じ内容の日本語、英語を問う設問で、日本語で適切に応じる設問に対し、同じ内容を英語で表現する設問は、正答率が 25%以上低くなることがわかりました。「言語や文化についての知識・理解」については平均正答率 80%と良好な結果となりました。その中でも、前後の文の内容から適切な慣用表現を選択する設問では、平均正答率が 90%を超え大変良好な結果となりました。しかしながら、前置詞 of の使い方について問う設問において正答率 37.6%と、後置修飾の文の組み立てに課題が残りました。</p>

### 3 調査結果を踏まえた指導の改善

#### (1) 国語

書く能力	自分の意見を述べることができても、条件に合った形式で解答できているかどうかを確認する習慣を身につけることが大切です。日頃の授業の中でも常に意識するよう指導することが求められます。
読む能力	意味的なまとまりを見つけたり、指示代名詞が何を指しているのかを確認したりしながら読む習慣をつけることが大切です。作品を味わいながらも、なぜ生徒が感じた印象になるのかを文章の構成から読み解く活動を取り入れることも大切です。また、段落ごとに内容を捉えるとともに、文章全体の論理展開について、段落のつながりに注意しながら読み進めることが重要です。
言語についての知識・理解・技能	形が似た漢字については、どこが同じでどこが違うのかを意識させながら、形の違う部分と意味の違いについて関連付けて覚えることも大切です。正確な漢字を書くことができるようになるだけでなく、文や文章の中で使うことができるよう指導することが重要です。

#### (2) 社会

社会的な思考・判断・表現	多民族国家の抱える問題点や文化の違いについて、日本との違いに注意しながら考察することは大切です。また、世界各地の気候と気候帯の関連性についても、同じところと違うところに注意して学習することが重要です。また、気候に関しては正確な知識を持つために、さまざまな地域を取り上げて学ぶことが必要です。
資料活用の技能	地図図法の種類について、それぞれの地図の長短所を把握することが重要です。地図の長短所を理解することができれば、適切な表現方法の選択にもつながります。また、日本が中心になっている地図と日本が中心になっていない地図を比較することで、それぞれの地図の場所がどこに対応しているのかを学ぶことも効果的です。
社会的事象についての知識・理解	社会的事象の学習は単に知識を暗記するだけでなく、その事象が起こった要因や事象が起こったことで何が生じたのかなど因果関係について考察することが重要です。また、教科書で説明されている言葉をそのまま覚えるのではなく、意味をとらえ、ほかの表現ではどのように言えるのかなどを考察することで、知識と知識の関係性について理解することが必要です。

### (3) 数学

数学的な見方や考え方	数学的な見方や考え方を養うためには、常に根拠を持って説明をすることを心がけることが大切です。また、同じ資料でも様々な視点から読み取ることができることを知ることが重要です。そのためには、授業の中で1つの資料から出た複数の読み取り方について、お互いに説明をしあうことも効果的です。
数学的な技能	数量の関係や法則を文字式で表す場合、文字が表わしているものは何かや係数が表わしていることについて意識して対応付けることが大切です。また、文字式で表現されているのであれば具体的な数値を入れてみることで確認するなど、検証する手段を教えることも必要です。
数量や図形などについての知識・理解	数量の関係を捉えるには、二つの数量のうち片方を増やしたり減らしたりして、もう一方がどのように変化するか注目することが重要です。比例、反比例にかかわる具体的な事象を発表しあう機会を設けることにより、数量の関係の特徴を捉える力を養うことが大切です。

### (4) 理科

科学的な思考・表現	与えられた情報から物質の性質を分けるなど、理科的な知識をベースに判断する機会が必要です。せっかく得られた知識を活用する場面の設定がないと知識を使う楽しさが実感できないので、設定しながら進めることが必要です。また、理科的な結論を出すには実験によって結果を求めることが必要で、その際には何と何を比較すればもとめられるのかなど科学的に考察することが重要です。
観察・実験の技能	顕微鏡やガスバーナーといった実験器具の操作手順にはすべて理由があります。その理由を理解させたいうえで、実践してみることが重要です。実際に誤った手順で操作した場合に、どのようなことが起きるのか体験してみることも効果的です。
自然現象についての知識・理解	自然現象について理解するには身近なもので体験し、理解することが大切です。同じ重さの物体に対し、糸につるして持ってみた場合と掌に載せて持ってみた場合とで、感じる重さの違いを実感するなどして、接触面積によって圧力が変化することを体験することも大切です。地層に関しても課外授業などをおして、実際に観察し、その地層を説明する機会を作ることが大切です。 自然現象を日常的なもので体験することで、理科の用語やその意味、知識を覚えたいという学習意欲を持たせていくことも重要です。

(5) 外国語 (英語)

表現の能力	英文を正しく表現をするためには、正しい語順や語法を理解することが大切です。そのうえで、日常生活の中で使用する場面を想定し、自分の気持ちを伝えることを繰り返し行うことが重要です。
外国語理解の能力	ある程度の長さを持った英文を理解するためには、大まかな流れを読み取ることが重要です。わからない単語がいくつかあっても、そこだけにとらわれずにその前後の文脈から文章の流れを把握することも大切です。また、読んだ文章をもとにクラスで（日本語であっても）ディスカッションを行い、意見の根拠を英語の文章に求めるなど、深く読ませる機会を設けることが大切です。
言語や文化についての知識・理解	日本語にはあまり見られない後置修飾の一つである前置詞 of の使い方について、用法を確認するなど復習の機会を日々提供することも知識定着の助けとなります。また、日本語の表現と英語の表現が一对一对応していないことにも日ごろから意識させていくことが必要です。